

ふくしま発掘最前線

吉田 秀享 (よしだ ひでゆき)

(公財) 福島県文化振興財団遺跡調査部副部長兼調査課長

はじめに

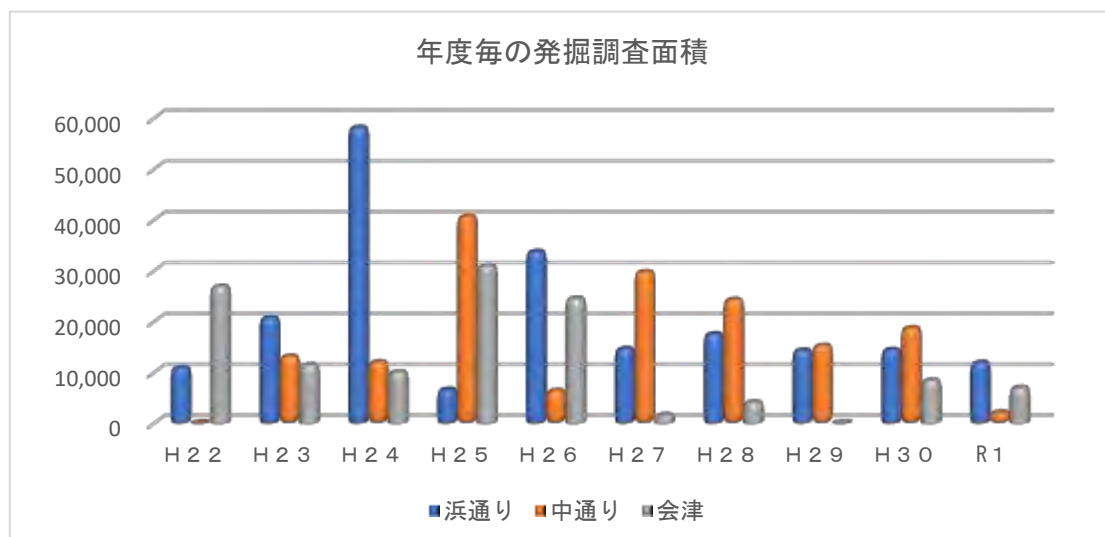
今年、当福島県文化振興財団は設立50年を迎えます。また、まほろんも来年に開館20年の節目を迎えます。これを記念して、当財団が関わった近年の発掘調査の成果が現在まほろん特別展示室で公開されています。個々の遺跡の調査成果については後述の「ふくしま発掘最前線—十三遺跡記—」解説資料をご覧ください、まずは東日本大震災からの復興関連調査として実施されてきた調査の推移と現状について、簡単にまとめておきたいと思います。

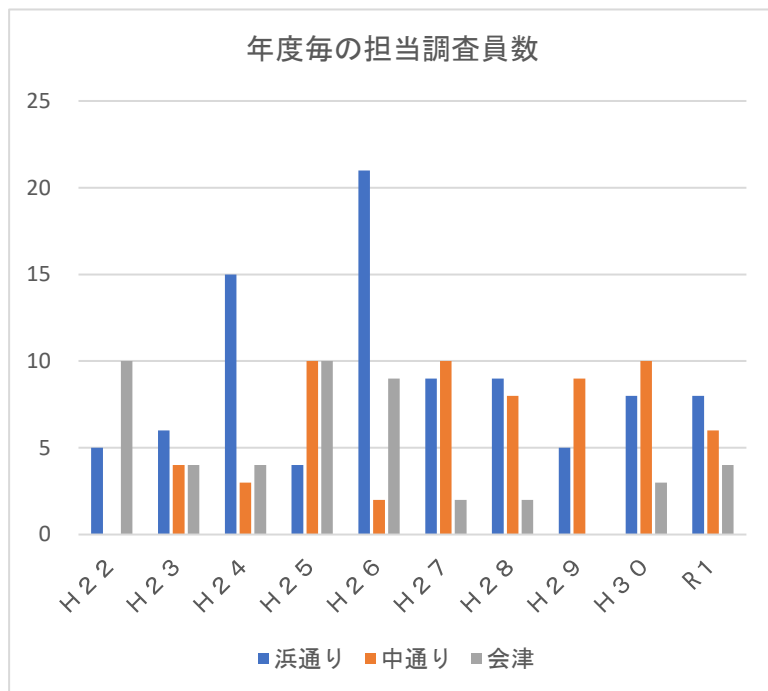
1 発掘調査面積の推移

福島県は、御存知のとおり、県内を南北に連なる奥羽山脈と阿武隈高地によって、会津地方と中通り地方、浜通り地方のおおきく3地方に分けられます。表1は、平成22年度からの発掘調査面積と調査員数の推移を、それぞれの地方ごとに示したものです。また、グラフはそれらを視覚的に示したものです。

	H22		H23		H24		H25		H26	
	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数
浜通り	10,900	5	20,700	6	58,100	15	6,600	4	33,700	21
中通り	0	0	13,100	4	12,000	3	40,600	10	6,350	2
会津	26,800	10	11,400	4	10,000	4	30,900	10	24,500	9
計	37,700	15	45,200	14	80,100	22	78,100	24	64,550	32
	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数	調査面積	調査員数
浜通り	14,600	9	17,500	9	14,300	5	14,400	8	11,880	8
中通り	29,700	10	24,250	8	15,200	9	18,680	10	2,170	6
会津	1,600	2	4,100	2	0	0	8,400	3	6,950	4
計	45,900	21	45,850	19	29,500	14	41,480	21	21,000	18

表1 年度ごとの調査面積と担当調査員数の推移





これを見ると、震災前の平成 22 年度では、調査員 15 名、調査面積 37,700 m²でありましたが、震災の年の平成 23 年度には調査面積が 45,200 m²となり、復興事業が本格化した平成 24 年度では、調査員 22 名、本発掘調査面積が 80,100 m²と、通常年度の 2 倍から 2.5 倍ほどとなっています。ただ、平成 27 年度以降は、調査面積が徐々に減少し、令和 2 年度の今年度は 14,000 m²ほどです。

また、地域的には、平成 24 年度に浜通りが突出していますが、その反動で平成 25 年度は中通りと会津地方が増加し、27 年度以降中

通りでの調査が一定程度行われています。これは、主として相馬福島道路関連の調査ですので、基本的には復興関連調査が中通りでも実施されるようになったためと考えられます。さらに、調査員数の推移でも、浜通りの状況は調査面積同様の傾向が見て取れます。

2 福島県の震災後の調査状況

福島県の埋蔵文化財調査に関する人的支援として、平成 24 年度から令和元年度まで、他県からの派遣職員をいただいています。派遣元は、北は青森県から南は沖縄県まで、本当に全国各地から応援に来ていただきました。さらに、平成 25 年度からは、財団法人間での出向も開始され、本年度までの 7 年間で 5 法人（岩手県埋蔵文化財センター・山形県埋蔵文化財センター・栃木県埋蔵文化財センター・東京都埋蔵文化財センター・大阪市文化財協会）から延べ 29 人の方々に発掘調査にご協力いただいています。

震災直後の調査では、復興工事の合間が埋蔵文化財の発掘調査となった事例が多く、プレハブや作業員の駐車場等のヤードの確保がままならず、簡易テントの休憩所や、発掘作業員を送迎バスで運行して調査現場に移送する等の対応が必要でした。ただ、現在ではこれらの諸問題は、ほぼ改善されています。

しかしながら、発掘調査に携わっていただく作業員さんの雇用については、現在でもなかなか思うようには集まらず、マンパワーが不足する状況が続いています。このため、調査支援業務を委託して作業員さんを集めてもらっています。さらに、発掘調査で必要不可欠な実測等についても、測量会社に委託する場合があります。

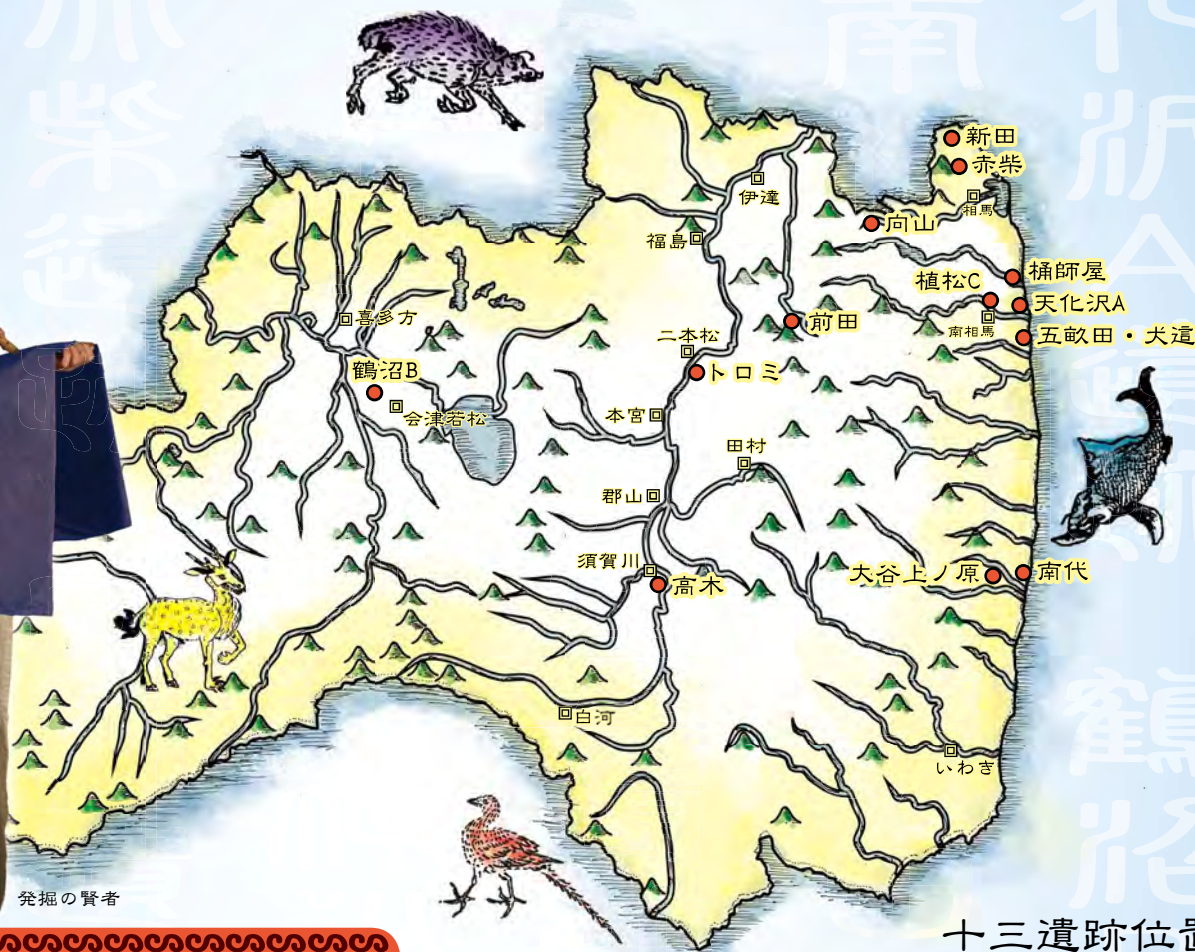
このように、震災前は直接我々調査員が行っていた業務について、外部に委託できるものは委託し、調査員が調査に専念する環境を整えながら、調査を少しでも効率よく実施できるように心がけています。このほか、遺物のデジタル測量を導入し、3次元の測定値が、のちのちに利活用できるような配慮も行っています。

様々な状況下での発掘調査ですが、今後も、発掘調査で判明した成果を通して、地域の復興を後押しし、地域の活力財に文化財を活用できるようにしながら、誇りに思える地元の歴史を培っていきたいと思います。

ふくしま発掘最前線

— 十三遺跡記 —

私と一緒に
十三の遺跡を巡り
発掘調査で
わかったこと
わからないこと
を確認していきましょう



発掘の賢者

十三遺跡位置図

なぜ遺跡を調査するの？

遺跡は、人が地面に残した暮らしの跡です。私たちは、遺跡を調べることで、文字や絵画だけでは分からなかった過去の人々の暮らしを知ることができます。ただし、遺跡が持つ情報は、建物などの跡（遺構）や使われていたモノ（遺物）の関係を丹念に記録しながら掘り出す発掘調査をしなければ得られません。このため、道路や堤防などの建設工事で遺跡が破壊される場合には、失われてしまう情報を後世に残していくために発掘調査が必要となります。東日本大震災から9年、福島県では、復興関係の建設工事に伴い多くの遺跡で発掘調査が実施されました。今回の展示では、この間に調査した遺跡の内、13箇所の遺跡発掘調査の成果を紹介します。



試掘調査



発掘調査



整理作業



発掘調査報告書

向山遺跡

Mukaiyama site

所在地 相馬市東玉野字向山
調査原因 一般国道115号線相馬福島道路建設
調査年 平成25・26年
時代 縄文・平安・江戸



製鉄炉跡



墓跡



霊山

中村街道

製鉄炉跡

墓跡

阿武隈高地の北部に奇岩をもって聳え立つ霊峰霊山。その南麓をかすめて延びる中村街道は、福島と相馬中村を結ぶ主要幹線として古来より人の往来が盛んであった。

中村街道の南に位置する丘の上に向山遺跡がある。この遺跡からは江戸時代の製鉄炉跡と墓跡が見つかった。

相馬藩領の西端にあたるこの地では、わざわざ海岸の砂鉄を原料に鋳物用の鉄素材が作られていた。墓跡からは、初期の大堀相馬焼とともに、鏡や火箸が出土した。

遺跡は、相馬藩辺境に生きた人々の営みの断片を伝えてくれる。

調査区遠景
(東から)



蓬葉文鏡(ほうらいもんきょう) 墓跡から出土した銅製和鏡。15～16世紀の所産で、伝世品と考えられます。

阿武隈川の長大な流れは、その両岸に住まう人々に、肥沃な耕地をもたらしとともに、中通り地方の南北を結ぶ物流の基幹としての役割を近代まで担ってきた。

阿武隈川の中流域に安達という地域がある。阿武隈川に西から注ぐ杉田川流域に郡府があり、両河川が合流するやや北側、阿武隈川の東岸にトロミ遺跡は立地する。遺跡からは、鎌倉時代の掘立柱建物跡が複数見つかり、使用されずに埋め戻された井戸跡などから、饗宴用の食器や刀装具、高級輸入磁器などが出土した。河川流通の拠点を抑えた安達の有力武士の邸宅であろうか。その者の名は、杓として知れない。



鞘尻金具(さやじりかなぐ)

13世紀後半の井戸跡から出土。鞘の先端に取り付ける銅製の飾金具で、菊花状の円形金具と雲形状の透かしのある金具で装飾されています。

トロミ遺跡

Toromi site

所在地 二本松市北トロミ・南トロミ
調査原因 阿武隈上流河川改修
調査年 平成23・24年
時代 縄文・古墳・奈良・平安・鎌倉

青磁蓮弁文碗(せいじれんべんもんわん)

13世紀に南宋の官窯で製作されたと考えられる高級輸入磁器。蓮華の刻文と空色の釉薬が特徴で、当時の有力者でなければ持てない逸品です。



調査区遠景と推定建物群(南から)

火打金(ひうちがね)

13世紀後半の建物の柱穴から出土。

井戸跡

鶴沼B遺跡

Turunuma B site

所在地 会津若松市高野町中沼字鶴沼
調査原因 会津縦貫北道路建設
調査年 平成25・26年
時代 平安・江戸

会津若松市街地

西坂才遺跡

鶴沼C遺跡

鶴沼B遺跡

西木流D遺跡

西木流C遺跡

人面墨書土器

(じんめんぼくしよどき)

9世紀後半の流路跡から出土。まじないに使われたと考えられます。

鋤形木製品
(すきがたもくせいひん)
9世紀後半の流路跡から出土。用途不明です。

土手状遺構

会津盆地中央の氾濫原が人々の居住地となったのは、鉄の農具が普及した奈良・平安時代である。

鶴沼B遺跡は、そういった氾濫原に立地する遺跡である。平安時代の流路跡の中に、杭や薦で補強された土手状の遺構が見つっている。不安定な足場を強化する工夫であろう。流路跡からは、文字や記号が書かれた土器や様々な木製品が多数出土している。北につづく西木流D遺跡・西木流C遺跡、南東の鶴沼C遺跡・西坂才遺跡では、建物跡群が見つかっており、これらが道で結ばれて、一体の郷を成していたのだろう。

調査区遠景と高野地区平安時代遺跡群(北から)

阿武隈高地の山体は、大部分が花崗岩類でできている。花崗岩に含まれる砂鉄が分離され、川を下って海に出て、波に洗われ浜に溜まる。奈良時代から平安時代にかけて、浜通り地方では、この砂鉄を原料にした鉄素材生産が盛んに行われた。南代遺跡はそのような製鉄遺跡の一つである。井出川北岸の小高い丘の上の遺跡からは、奈良時代の多様な製鉄炉跡が見つかり、技術導入期の試行錯誤がうかがわれる。また、刀を鉄滓で被覆する行為が見られたほか、ある炉跡では、炉内に4本の通風管を入れる行為が確認された。いずれも廃炉に際して行うまじないなのであろうか。

鉄刀(てつとう)

8世紀中葉～後葉の製鉄炉跡から出土。製鉄炉跡からの出土は極めて珍しい例です。

広野火力発電所

太平洋

井出川

製鉄炉跡・木炭窯跡

通風管が詰め込まれた製鉄炉跡

調査区遠景(北から)

南代遺跡

Minamidai site

所在地 檜葉町大字下繁岡字南代
調査原因 県道広野小高線整備
調査年 平成26・27・28年
時代 弥生・奈良

鉄刀が出土した製鉄炉跡

桶師屋遺跡

Okeshiya site

所在地 南相馬市鹿島区北右田字桶師屋
調査原因 農山村地域復興基盤総合整備
調査年 平成28・29年
時代 古墳・奈良・平安・室町・江戸



竪穴住居跡（5世紀前半）
から出土した土師器

まんようかじんかさのいらつめ うた ゆうめい
万葉歌人笠女郎の歌で有名な
まゆがわりゆい たいこ
真野川流域は、太古からの人々の
いと な お ちいさ し
営みが追える地域として知られて
いる。『先代旧事本紀』という書物
によると、古墳時代の終り頃、こ
ち うたのくにのみやつこ ころぞく
の地は浮田国造と呼ばれる豪族が
おさ
治める地であったようだ。

まんようかん こうだい はんらんげん
真野川北岸の広大な氾濫原のた
だ中に細長く延びる微高地があ
うえ おけしやいせき りつち
り、その上に桶師屋遺跡は立地す
る。遺跡からは、古墳時代中期の
ほり さく いによう たてあなじゅうきんあくとん
濠と柵に圍繞された竪穴住居跡群
み か じ おわ たすう
が見つかった。鍛冶の跡や多数の
さいしやうせきせいもぞうひん しゅつど
祭祀用石製模造品が出土すること
から、この地を治めた豪族の居館
かのうせい
であった可能性がある。浮田国造
かんけい き
との関係が気になる遺跡である。

五畝田・犬這遺跡

Goseta Inubai site

所在地 南相馬市原町区雫字五畝田・犬這
調査原因 農山漁村地域復興基盤総合整備
調査年 平成27年
時代 縄文・弥生・古墳・平安

ガラス小玉・管玉（こだま・くだたま）
4世紀後半の竪穴住居跡から出土。
管玉は、蛇紋岩製。

はまかせ つよ ふ つ
浜風が強く吹き付け
かいばつ
る海抜8mのなだらか
おか うえ いせき
な丘の上に、その遺跡はある。
こ せ た いぬばい よ いせす
五畝田・犬這と呼ばれるその遺跡
だいしやう けん たてあなじゅうきよあと
では、大小19軒の竪穴住居跡から
な こふんじ だいぜんき しゅうらくあと かくにん
成る古墳時代前期の集落跡が確認さ
れた。1軒の住居跡から、ガラス
こだま てん せきせいくだたま しゅつど
小玉2点と石製管玉1点が出土した。
はかあと おお
墓跡から出土することの多いこれら
ほうしよくひん せいかつ ぼ じゅうたく
の宝飾品が、生活の場である住宅か
ら出土するのは大変珍しい。
にっぽん せいさん はじ
日本でガラスの生産が始まるのは、
あすか いぜん そざい
飛鳥時代。それ以前のガラス素材は、
はくらい とらぜんて い
すべて舶来もので、当然手に入れる
ことは難しい。空の色と海の色ので
むずか そら いろ うみ
ガラス小玉、そして岩の色の管玉、こ
ち す ひとびと なに おせ
この地に住んだ人々は何を思いこれら
のこ
を遺跡に残したのか。



竪穴住居跡（4世紀後半）
建て替えにより、壁の位置が広
がっています。

『魏志倭人伝』によると、弥生時代の後期に当たる時期、倭国は長い間戦乱状態であったという。遺跡の調査成果から、概ね関東・中部地方以西の話であるらしい。

それでは福島県域はどうであったか。倭国に含まれていたかどうかは不明であるが、弥生時代後期の遺跡は極めて少なく、集落遺跡となると数えるほどしかない。阿武隈川西岸に沿った微高地上に立地する高木遺跡は、弥生時代後期の集落跡の様子がうかがえる稀有な遺跡である。墓域を中心に数軒の住居が散在する。そこには、

王も国郭も存在しない。質しくとも平和なムラの姿が想像できる。

弥生土器広口壺
(やよいどきひろくちつぼ)
2世紀後半。墓跡から出土。



調査区遠景と弥生時代後期の集落跡（東から）

高木遺跡

Takagi site

所在地 須賀川市浜尾字高木
調査原因 阿武隈川上流河川改修
調査年 平成27～30年
時代 弥生・古墳・奈良・平安・室町

天化沢A遺跡

Tengasawa A site

所在地 南相馬市原町区北泉字天化沢他
調査原因 農山漁村地域復興基盤総合整備
調査年 平成26・27年
時代 弥生・奈良・平安

原町市街



石庖丁 (いしぼうちよう)
紀元前1世紀頃。未完成品 (上) 完成品 (下)。

住居跡 (紀元前1世紀頃)



調査区遠景 (東から)

相双地区の遺跡で目にする灰色の石がある。恐竜が地上で繁栄するよりずっと昔、古生代の海の底に降り積もった細かい泥が長い年月をかけて岩石となったものである。「粘板岩」と称するこの石を利用して、弥生時代中期の人々は、稲の穂を摘む石庖丁という道具を盛んに作った。天化沢A遺跡も、そういった石庖丁の製作が行われた遺跡の一つである。低地に面した小高い丘の頂や斜面中腹の平らな場所のいくつかから、各工程の石器の未完成品が出土した。家族単位で分散して石庖丁を作っていた様子がうかがえる。

埋蔵 (紀元前1世紀頃)

弥生土器壺 (やよいどきかめ)
紀元前1世紀頃。横倒しに埋設されていた。



縄文時代中期
集落跡推定地

遺物包含層

調査区遠景（南東から）

植松 C 遺跡

Uematsu C site

所在地 南相馬市原町区上北高平字植松
調査原因 県道浪江鹿島線整備
調査年 平成28・29年
時代 縄文・平安

アオサメ
属の歯

シカの足
首の骨

鳥類の脛
の骨

イノシシ
の脛の骨

ノウサギ
の脚の骨

イノシシ
の脛の骨

動物遺体（どうぶついたい）
これらの他、鯛や鯉などの魚類の
骨や小型哺乳類のアゴの骨も見
ついている。



縄文土器深鉢
（じょうもんどきふかばち）
紀元前3,300年頃。遺物包含
層から出土。

考古学の世界では、ゴミ捨て場を遺物包含層と呼び、調査の有力な対象としている。なぜなら、良好な遺物包含層は、遺跡を残した人々の生活復元の材料を、豊富に提供してくれるからである。

植松C遺跡は、縄文時代中期前葉の遺物包含層が見つかった遺跡である。新田川北岸の小高い丘の上にあり、浅い谷に面した斜面から夥しい量の土器や石器が出土した。土器や石器を多量に含む土からは、当時の人々が食べていた獣や魚や鳥の骨が残っており、多様な食材の存在が想定できる。ゴミ捨て場を残した人々の集落は不明であるが、おそらく斜面を登った丘の頂上にあることが推定できる。



縄文土器深鉢
（じょうもんどきふかばち）
紀元前3,200年頃。遺物包含
層から出土。

遺物包含層土器出土状況

新田遺跡

Shinden site

所在地 新地町福田字新田
調査原因 常磐自動車道建設
調査年 平成26年
時代 縄文・江戸



遺物包含層

漆容器（うるしようき）
紀元前4,100年頃。遺物包含層から出土。土器の内面に漆の塊が付着しています。



大型住居跡（おおがたじゅうきょあと）
紀元前4,100年頃。同時期の住居跡としては、県内
最大規模の長軸長13.2mを測ります。



土偶（どぐう）
紀元前4,100年頃。土製の人形。遺物包含層
から14個体が出土している。

十字架のような形をした土偶がある。顔の位置には穴があり、腕を横に広げている。胸の位置にはボタン状の粘土を貼り付けて乳房だけが表現されている。土偶が人の形を獲得する以前の姿である。この土偶は新田遺跡から出土した。遺跡は、宮城県境の地蔵森山から東に延びる尾根上に位置する。尾根の頂の平坦な空間を取り囲むように、縄文時代前期前葉の竪穴住居跡が8軒見つかっており集落を形成していた。集落跡の北側斜面には、遺物包含層があり、先述した土偶をはじめ、たくさんの土器や石器が出土した。土器の底に残された物質の分析から、漆の使用も明らかになっている。

礫群 (れきぐん)

紀元前20,000年頃。赤柴遺跡では、この礫群が5箇所見つっています。

赤柴遺跡

Akashiba site

所在地 新地町駒ヶ嶺字赤柴・杉目字飯樋
調査原因 常磐自動車道建設
調査年 平成23・24年
時代 旧石器・縄文・平安・江戸

礫群と石器集中部の分布状況 (南東から)

炭化物集中部

礫群

礫群

礫群

石器集中部

礫群

礫群

有樋尖頭器
(ゆうひせんとうき)

紀元前20,000年頃。
先端に樋状の特殊な加工が加えられた槍先と考えられる石器です。

旧石器時代調査範囲

調査区遠景 (南から)

どき はつめい まえひとひと ちょうり
土器が発明される前の人々は、どんな調理をしていたの
だろうか？その問いに答えてくれそうな遺構が赤柴遺跡で
見つかっている。浜通り地方北部の広く平らな丘の上にあ
るこの遺跡からは、旧石器時代後期後半の礫群と呼ばれる
焼けた拳大の河原石のまとまりが検出された。焚火で高熱
にした石の上に、葉に包んだ魚や肉などの食材を並べ、皮
や土で覆って蒸し焼きにした跡と考えられている。調理場
の横には、石の屑や石器が散らばる石器集中部と呼ばれる
石器製作の跡も見つかっている。石器には、獲物を捕るた
めの尖頭器も出土している。笹鹿や麗などの、本州では絶
滅してしまった動物に舌鼓を打っていたのであろうか。

大谷上ノ原遺跡

Oyauenohara site

所在地 檜葉町大谷字上ノ原・山根
調査原因 常磐自動車道建設・整備
調査年 平成11・12・20・22・28・29・30年
時代 旧石器・縄文・奈良・平安

石器集中部の石器出土状況

旧石器時代後期後半の石器

紀元前25,000年
ナイフ形石器 (左)、切出形石器 (右)。

旧石器時代後期後半の石器

紀元前20,000年頃。
先端が欠けていますが尖頭器です。写真の石器集中部から出土しました。

いま まんねんまえ
今からおよそ3万年前、
かごしまわん あいら ぶん
鹿児島湾にある始良カルデラが噴
か ぼうだい かざんばい にっぽんれつとう
火し、膨大な火山灰を日本列島に
ふ ま たんざわ
降り撒いた。A T (始良沢火山灰)
よ ぶく どそう
と呼ばれるこの火山灰を含む土層
きゆうせつきだいこうき ねんだい かんが
は、旧石器時代後期の年代を考え
る基準となっている。

おおやうえのはらいせき いでがわ
大谷上ノ原遺跡は、井出川と
きどがわ はさ こうだい だんきゅう
木戸川に挟まれた広大な段丘の
上にある。遺跡では、11箇所の
せつしゅうちゅうぶ ねきぐん けんしゅう
石器集中部と1箇所の礫群を検出
した。石器集中部ごとの石器の組
あ こうかまえ
み合わせは、A T降下前、降下
ちよくご あと
直後、さらにその後など、複数時
かくにん けせの おうつ
期を確認できた。獣を追って移り
す ひとひと
住む旧石器時代の人々にとって、
この
大谷上ノ原遺跡は、住むのに好ま
しい土地であったのだろう。

旧石器時代
後期前半
の石器

紀元前30,000年頃。
局部磨製石斧 (左)、
ナイフ形石器 (右)。

調査区遠景 (南から)

前田遺跡

Maeda site

所在地 川俣町大字小綱木字前田
調査原因 国道114号線改良
調査年 平成30年～調査中
時代 縄文

丸木弓
(まるきゆみ)
紀元前
2,800年
頃の流路跡
から出土。
このよう
な弓が多
数出土し
ています。



火鑽臼 (ひきりうす)
紀元前2,800年頃の流路跡から出土。
火おこし道具としては、国内で最古の
例です。



調査区遠景(北西から)



流路跡の自然遺物と木製品出土状況(紀元前2,800年頃)



漆塗木製杓子把手出土状況(紀元前2,800年頃)



漆塗土器出土状況(紀元前2,800年頃)



縄文時代後期・晩期の面の調査状況(北東から)

令和2年度まほろん特別展 50周年

ふくしま発掘最前線 —十三遺跡記—



福島県文化財センター●白河館

見て・触れて・考え・学ぶ 体験型フィールドミュージアム

福島県文化財センター白河館(まほろん)

開催期間 2020年6月6日(土)～8月30日(日)

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86

TEL: 0248-21-0700 FAX: 0248-21-1075

ホームページ [まほろん](#) [検索](#) (2020年6月6日発行)

前田遺跡はとてつもない遺跡である。縄文時代中期の終わり頃から晩期の初めごろまで、繰り返し集落が営まれ、時に墓域となっていたらしい。特筆すべきは、漆器をはじめとする木製品や動植物遺体などの有機質の残りの良さだ。この遺跡の研究は、今後の縄文時代観を変えることだろう。このような遺跡は、県内は元より、全国でも極めて希少である。しかし、この遺跡は道路整備に伴い失われることとなる。発掘調査は二度とやり直すことができない。せめて少しでも多くの情報を後世に残せるよう、発掘調査員は、今日も遺跡に臨んでいる。

